

2017.5.31 22:12

取手中3いじめ自殺 教育長が両親に謝罪 調査見直し検討

平成27年11月に「いじめられたくない」と日記に書き残して茨城県取手市立中学3年の中島菜保子さん=当時（15）=が自殺した問題で、同市教育委員会の矢作進教育長は31日夜、両親宅を訪れてこれまでの対応について謝罪した。市教委はいじめがあったと認めて、調査の見直しを検討することを明らかにした。

同市教委は28年3月、いじめ防止対策推進法が規定する「重大事態」に該当しないと議決した後、第三者調査委員会を設置した。今年5月29日、菜保子さんの両親が市教委に対する調査の中止と調査委解散の申し入れ書を文科省に提出。市教委は30日に臨時会を開き、議決を撤回していた。

文部科学省は31日、矢作教育長ら呼び、これまでの経緯の報告を受けた上で、調査の枠組みを見直すよう指導。終了後に取材に応じた矢作教育長は「重大事態」に該当しないと議決したことについて、「当時の判断が不適切だった。反省している」と陳謝。遺族の意向も踏まえ、調査の進め方を見直す考えを示した。

文科省の担当者は「いじめを示すメモや日記があったのに、議決したのは不適切だ」と指摘している。

菜保子さんの両親によると、菜保子さんは自宅で首をつって自殺。一部の同級生から「くさや」などと呼ばれ、いじめを受けていたという。



中島菜保子さん宅を訪れ、父考宜さんと母淳子さんに謝罪する茨城県取手市教委の矢作進教育長（右奥）＝31日夜、取手市

©2017 The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL All rights reserved.